

令和7年2月17日

上島町教育委員会
教育長 清水 伸 様

上島町立弓削中学校
校長 白石 建彦

令和6年度 学校関係者評価報告書

- 1 開催日時 令和7年2月10日（月） 19:00～20:00
- 2 参加者 学校運営協議会委員及び小中学校管理職 9名
- 3 協議内容 評価結果・改善方策等、学校側の説明を聞いてからの意見交換・感想

1 学校評価アンケートから特に課題と考えられる項目の分析と考察について、学校からの説明

(1) 質問項目1番について

教職員、生徒の評価に対して保護者の評価が低くなっている。グランドデザイン等をはじめとする学校経営方針が、教職員、生徒への理解が深まっている反面、保護者にはその取組が十分には伝わっていないと考えられる。学校教育活動を通して指導を継続するとともに、学校の取組を保護者に伝える工夫をしていく必要がある。

(2) 質問事項3番、5番について

生徒、保護者の評価は昨年より良好となっているがまだ低く、特に教職員による評価が低くなっている。教職員は、家庭での学習課題として自主学習を毎日継続し、家庭学習の習慣付けを図っているが、マンネリ化して自主学習の時間が減少したり、家庭学習の時間自体が減少してきていると感じているためと考えられる。学校で行っている指導が家庭でも継続できるように、指導の工夫や家庭との連携による家庭学習の習慣化を図る。さらに、小中連携を通して、家庭学習の習慣化を徹底させていくことが大切である。

(3) 質問事項12番について

毎日の日記指導や、毎月の生活アンケートを通して生徒の悩みに関する実態把握に努めているが、生徒の評価は低い状態である。普段から相談しやすい雰囲気づくりと教育相談の機会を更に充実させ、生徒理解に努めていきたい。また、小さな問題でも電話連絡、家庭訪問を行うなど家庭との連携を密にし、生徒を見守る体制づくりに努めていきたい。

2 意見交換

○児童生徒と保護者との回答のギャップについて

- ・質問の意図が伝わっていない保護者もいるのかもしれない。
- ・基準がいろいろあり、教師、児童生徒、保護者で受け止め方が違っている。できるだけ質問をシンプルにした結果、あいまいになった点もあるように思う。
- ・各回答者が何をもって判断しているのか。揃えた方がもっと良い結果になると思われる。
- ・教師は自分とクラス、保護者は我が子をメインで評価している。意図する結果が出ているのか疑問に思う。アンケートの項目づくりに工夫が必要（同じ目線になるように）である。
- ・「自分の子どもを見て判断してください」など、注意を入れたら分かりやすくなると思う。

○中学校の項目 12 番目について

- ・「面談、相談」といったイベント的なことではなく、多感な生徒にとっては、普段の一声が大切で、注意した後の一言の声掛けなどで変わってくるのではないかと感じる。

○子どもは、学校の姿と家庭での姿は違う。

- ・親は、望みが高いため、子どもとのギャップが出てくる。

○日記指導について

- ・中学校は「あゆみ」で一人一人日記指導をしている。小学校は日記による継続した指導はない。「あゆみ」を書くことで、表現力の指導にもつながるかもしれない。高校は学習調査の時に担任からの記入はあるが、毎日ではない。

○質問内容を昨年との比較ができ、意図が伝わる内容で検討する必要がある。

- ・来年度のアンケートを取る前に、CSで文章表現などの手直しをしてはどうか。話をするすることで、周知もできるのではないかと思います。